

Laboro. AI代表取締役兼最高経営責任者(CEO) 椎橋 徹夫氏



人工知能(AI)事業を手掛ける「Laboro. AI」(東京都中央区)。さまざまな産業分野にAI技術で貢献していることと研究や協業を進めており、建設分野にも力を入れる。生産の在り方そのものを変えていくことが大きな方向性。デジタルトランスフォーメーション(DX)をさらに前進させ、「AIIX(AIトランスフォーメーション)」を目指す。

「取り組みの方向性は。AI技術の専門家の視点から、必要な技術の実装まで支援している。オペレーションを部分的に効率化するのはなく、やり方やサービスの全体を置き換えていくことが重要だ。建物の揺れを抑制する

建物の設計の在り方などが変わっていくはずだ。例えば、制御技術でブレークスルーが起きるとスマートビルデザインなどの効率が上がり、神経が通ったように建物全体が変わっていくだろう。画像認識を用いて、安全性や品質を高めていくこともターゲットだ」

建物の設計の在り方などが変わっていくはずだ。例えば、制御技術でブレークスルーが起きるとスマートビルデザインなどの効率が上がり、神経が通ったように建物全体が変わっていくだろう。画像認識を用いて、安全性や品質を高めていくこともターゲットだ」

自動化が進んでいる。新たな制御などを取り入れて部品などを変えていくのが構造の段階だ。高性能になるが、作られる機能はそれほど変わらないうえ、改良という観点と異なるだろう。設計にAIを取り入れ、これまでの常識とは全然違う設計が出てきて、新しい建設物ができる」と建物

「これまでは技術的に難しかった制約に、AIなどで対応できるようになってきた。AIで部分的に代替するのはなく、長期的に制約解除の連鎖反応を起こして、建設業を変えていくことが目標だ。」

「ゼネコンとの連携に向けては。」

「これまででは技術的に難しかった制約に、AIなどで対応できるようになってきた。AIで部分的に代替するのはなく、長期的に制約解除の連鎖反応を起こして、建設業を変えていくことが目標だ。」

『どの制約を無くすべきなのか』『現在の技術で外せる制約は何か』を見つけることが一番のポイントになる。ゼネコンらと研究開発しAIIXをともに切り開いていきたい。」

この人に聞く

「AIIX」で業界の变革を

るAMD(アクティブ・マス・ダンパー)をAIで高性能に制御して、従来以上の制震効果を得る研究をゼネコンと進めている。従来の方法では実現できなかったようなやり方をAI使って確立すれば、

「建築生産を、建設工程、建物構造、建物設計、コンセプトという四つのレベルに分けて考えている。最も手をつなぐのが工程で、画像にイバーな場を融合させた方が、より価値の高い空間作り

「変革のイメージは。の機能も変わっていく」

「新型コロナウイルスの影響で、バーチャルな場にも注目が集まっている。デジタルツインでフィジカルな場とサイバーな場を融合させた方が、より価値の高い空間作り

◆事業戦略は

「取り組みの方向性は。AI技術の専門家の視点から、必要な技術の実装まで支援している。オペレーションを部分的に効率化するのはなく、やり方やサービスの全体を置き換えていくことが重要だ。建物の揺れを抑制する